

会議名	令和元年度西尾市子ども読書推進委員会
日時	令和2年2月19日(水) 14:00~15:30
場所	市役所 52AB会議室
出席者 【敬称略】	委員長 安井克彦 委員 内藤貴久、伊藤嘉樹、筒井清人、森田真弓、磯貝真澄、小嶋隆広、杉浦千代子、原田依子 事務局 生田美恵、黒野泰明
配布資料	・委員会次第 ・第3次施策達成度進捗状況表(平成30年度実績) ・ " (令和元年度見込み) ・読書通帳の導入について

委員会の中で出されたことは以下のとおり。

1 あいさつ

安井委員長あいさつ

2 議題

(1) 西尾市子ども読書活動推進計画の進捗状況について

委員長 第3次達成度進捗状況表(平成30年度実績)について、事務局から説明してください。

事務局 第3次計画の平成30年度の実績値を、それぞれの担当する課から提出いただき、取りまとめたものの評価(案)を作成した。4段階の評価として、◎は「もう既に目標を達成している」項目で、全体の54項目のうち29項目。○は「このまま取り組んでいけば、5年後の目標値は達成できる」で11項目。△は策定時の実績値を下回っている、或いは目標達成が危ういで12項目。×は「未実施、達成が難しい」で2項目。重点項目になっているにもかかわらず、△、または×となっているものについてご説明申し上げます。

基本方針1-2-(1)は、資料が利用できる場の開設や運営を支援するという具体策で、目標指数は資料が利用できる場の新規開設の最終目標で5か所としているが、平成30年度は1か所、佐久島開発総合センターに開設したのみで△とした。家庭文庫やふれあいセンター内に新しく開設できたらと考えている。

基本方針3-1-(1)は、読み聞かせに関する講座を開設するという項目で、読み聞かせの推進のための重要な図書館の施策であるにもかかわらず、30年度は目標の年8回に対し3回の開催となっている。一般の利用者、小さい子どもを持つ親向けに読み聞かせに関する講座を開催し、絵本の楽しさ、親子での読み聞かせの大切さを伝えていかなければいけないと思っている。

基本方針3-4-(1)は、中高生向け図書を充実するという具体策である。出版点数自体が少ないということもあるが、どういった本がふさわしいかという判断も難しく、目標値に達していない。

基本方針4-1-(3)は、子ども読書活動に関するアンケートを実施するという具体策であるが、令和2年度から3年度にかけて、次の四次の計画を策定する前に実施する予定である。

委員(原田) 先ほどの説明で、図書館での読み聞かせ講座の実施回数が少ないという説明があったが、読み聞かせに絞った講座という形ではなく、ボランティアが対象であったりしたものは開催している。また、全課に係ることであるかと思うが、子ども読書活動の施策は、予算がかかるというよりも、人力、職員がいかに動くかというところの施策が多い。イベントを増やすと、職員が動くことになり、働き方改革ではないが、そのあたりの調整が課題になっている。

委員(磯貝) 今の読み聞かせ講座だが、出向いていくというもので実績を伸ばしたらどうか。健康課では子育てサークルに出前講座で出向き実績を上げている。

⇒ それについては、基本方針 1-1-(5)の子育てサークル等へ読書活動に関する情報を提供する、という中で、子育て支援センター、マタニティクラスへの出前の回数を入れている。読み聞かせ講座とは、図書館内で開催して、図書館に来るお母さん向けに開催するものと考えている。

委員(磯貝) 基本方針 3-1-(1)の評価は×になっているが、目標値には満たないが、やっているのなら△でいいのではないか。

⇒ △に変えさせていただいてよいか。→ 評価を△に変更する。

委員長 基本方針 4-1-(3)は×でよいか。やるかやらないかしかないが。

委員(原田) 5年間の間に1回やるということで、今は未実施ということである。

委員(伊藤) このアンケートの対象は子どもか。

委員(原田) 子ども読書活動推進計画は0歳から18歳までの計画であるため、子どもと言ったらこの年齢である。

委員(伊藤) 義務の段階で行ったら、小中学生の児童生徒にアンケートを実施する、ということではよろしいか。もし、アンケートを取る場合は、こんな本を入れてほしいという項目を入れると、先ほどのヤングアダルトの選書に活かせるのではないかと思う。

委員(内藤) 学校を通じてアンケートを取るということは難しいか。

委員(伊藤) 市を上げて行うということだったら、校長会を通して行えば大丈夫。

委員(内藤) こういう計画を作るのなら、来ない人の声を重要視したほうがよい。来ない子どもの意見が一番聞きたくて、こういうものがあれば来るといったようなものなど、今後の読書通帳にも反映していくと思う。図書館に来る人と来ない人でアンケート項目を分けていくとよい。

⇒ 三次を作ったときのアンケートも学校と保育園にご協力をいただいた。同じことを考えている。前は小学2、4、6年、中学2年、高校2年といったように学年を決めて抽出した。

委員(杉浦千) 中高校生が図書館をあまり利用しないという。コミック本も入れていって良いのではないか。

委員(筒井) 確認だが、基本方針 1-2-(1)でふれあいセンター内に本を置くということというようなことを言われたが、何も聞いていないけれどどういうことか。

⇒ 最初に考えていたのは家庭文庫への支援だったが、今の時代、家庭文庫を行っている人はなく、ではどこへ、といったときにふれあいセンターかな、という気持ちであり、具体的にどこのふれあいセンターへと決めているわけではない。増やしていけるとしたらふれあいセンターなのでは、ということである。

委員(原田) 平成29年度に佐久島ナビステーションに本を置いて、そこで読んでいただけるといって開設の仕方をした。公なところであれば、そういったこともできるのではないかと考えている。図書館の本で、複本のある本を図書館の管理から外して、好きに使ってもらえる本ということ考えている。

委員長 第3次達成度進捗状況表（令和元年度見込み）について、事務局から説明してください。

事務局 こちらについては、平成30年度に△であったり、あまりできていなかったところが、令和元年度にどう変わったかという説明をさせていただく。

基本方針 1-2-(3)保健センターの図書コーナーの図書の整備について、冊数的には達していないが、健康課からの要望で、外国語の絵本も入れるようにした。

基本方針 2-1-(3) 学校教育課からのもので、小中学校のホームページで読書活動を公開するというものが、△だったものが、今年度は全校公開を目標とするとなり、目標達成する予定。

基本方針 2-1-(5) 外国語図書を整備する学校の割合は、47%から 68%に上がっている。

基本方針 2-1-(6) 保育士等の読み聞かせ情報交換をする園の割合、68%から 71%。

基本方針 3-1-(1) 読み聞かせ講座の実施回数については、令和元年度も回数が目標に至っていない。

基本方針 3-1-(4) おはなし会を実施する日数の割合の目標値が 100%に対して 66%。30 年度に比較しても少し下がっている。ボランティアの協力で行っているのだが、ボランティアが減少している。それをカバーするためにボランティア養成講座を開催しているのだが、新しいボランティアの育成にはなっていない。

委員長 ボランティアの協力が難しいということはどういうことか。

⇒ ボランティアの高齢化である。

委員(杉浦千) 家族の介護が必要になったりということもある。若い人が入ってくるとよいが、仕事をしている人が多い。講座は受けてくれるが、すぐには活動できないという人もいる。

委員(筒井) 図書館でおはなし会を開催している日数の割合というのは、本館だけか。

事務局 分館も併せた 4 館。毎日どこかでおはなし会をやっているという割合。

委員(筒井) 必ずどこかでおはなし会をやっている、ということとはすごいことだ。

委員(伊藤) 他の項目でも思ったが、目標設定がとても高い。308 日開館で 200 日おはなし会をやっていたら、すごいことだと思う。読み聞かせ講座も年 3 回実施していれば十分な実績ではないか。

委員長 目標値の設定基準は何かあるのか。

事務局 三次を作成する前に推進委員会、策定委員会を開催し、その中で委員から意見をいただき作成した。

委員(杉浦千) ボランティアについては、男性を巻き込むといいのではないか。

委員長 それでは、各課、次年度に向けて重点的にやっていきたい事項等ございましたらご説明ください。

委員(森田) 児童クラブに毎月 100 冊ずつ配本していただいております。引き続きお願いしたい。

委員(杉浦真) 園では、毎日 1 回は必ず読み聞かせをしている。保育士同士の情報提供というとなかなかできていない。園に持ち帰って検討課題としたい。

⇒ 現在、園に出前のおはなし会を行っている。保育士向けに本の紹介をすることもできる。絵本リスト等もお渡しできるので、その際に情報交換をしていただければと思う。

委員(磯貝) ブックスタートということで協力いただいている。1%、10 人に手渡せていないのが残念だが、続けてお願いしたい。マタニティクラスでの出前講座で、お母さんたちへの情操面での働きかけも反応が良いと聞いている。保健センターでの配本に外国語絵本を入れていただいているのもありがたい。

委員(伊藤) 図書ボラに助けられている。また、図書館からの配本もありがたい。連携を深めていきたい。外国籍の子どもの多い学校では引き続き、外国語の蔵書を増やしていきたい。また、学校司書は 18 名配置と図書館アドバイザー 1 名である。

委員(筒井) 家庭教育講座の中で読み聞かせを盛り込んだ講座を考えていきたい。また、ふれあい

センターフェスティバルの中で、要望があればお願いしたい。

(2) その他

委員長 その他、事務局から何かありましたら説明してください。

事務局 読書通帳についての説明。令和2年度に読書通帳の導入を計画している。図書館で本を借りた貸出履歴を、銀行の預金通帳のように記帳できるもの。通常、図書館で借りた本の書名などは、個人情報保護の観点から、本を返却した時点でデータが消去される。

効果としては、①読書履歴を目に見える形にすることで、読書意欲を促進する。②読書履歴をいつまでも保存でき、自分の宝物、子どもの成長の記録になる。③借りた本の価格を印字することで、貯まる喜びを感じることができる。④記録することが楽しく、来館の促進につながる。⑤税金を投入した図書購入に対して図書館を利用することで、どれほど享受を受けているかが明確になる。

配布については、市内在住の中学生以下（0歳から中学生まで）には西尾信用金庫の寄付を受け、無料配布する。また、小中学生には全員に配布。ブックスタート（4か月健診）会場で申込受付予定。高校生以上は300円で配布する。西尾信用金庫と事業連携を結び、協定書を交わす。

開始時期は令和2年10月のにしお本まつりで開始する予定。読書通帳だけでは機能せず、貸出カードを作って連動させて初めて使えるため、小中学生に配布するにあたり、貸出カードを作ってもらい必要がある。4月当初の校長会議で説明をし、全市を7ブロックに分けて、進めていく。全部の登録が終わった9月頃に読書通帳を配布する予定。

費用については、4台分の通帳機とシステム連携費、有料の通帳1,000冊分あわせて967万1千円。

導入後の読書推進についての特典は、通帳が1冊貯まるごとに、ファイル、ブッカーかけなどのサービス。市内小中学生の貸出カードの登録率は55%、8,200人くらい。

委員長 近隣でこれを導入しているところはあるのか。

事務局 安城、岡崎に入っている。しかし、全小中学生に配布しているところはない。

委員(原田) 基本方針1-1-(3)「おやこ読書ノート」を推進するという項目があり、年少児の全員に配布している。これを読書通帳に移行していこうと思うがどうか。園ではこのノートをどのように活用しているのか。

委員(杉浦) 「おやこ読書ノート」は、親子での読書記録であり、読書通帳と少し役割が違うような気がするため、園では引き続き「おやこ読書ノート」の配布を希望したい。

委員長により令和元年度子ども読書推進委員会を閉会した。